

平成 28 年度 事業報告



岡山理科大学附属中学校

中高一貫校の優れた教育内容を提供し、学んでいる子どもたちの学力をさらに伸ばし、難関大学入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成します。



グローバル化や産業構造の転換などの変化により、社会で求められる能力が変わりつつあります。変化する社会の中で、自分の人生

を生き、社会の持続的な発展に貢献するためには、自分の頭で考えて判断し、主体的に行動できるような人を育てる教育が求められています。

本校は、知識・技能のみならず思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性という「真の学力の育成・評価」に取り組みました。

大学の併設校としてのスケールメリットを存分に活かし、中大が連携することで、大学で学ぶ学問の一端にいち早く触れる機会を設け学ぶことの楽しさを実感させるとともに、能動的な学びの下、知的好奇心が刺激され、勉学へのモチベーションを高められることで、将来のキャリア形成の契機としました。

また、このような取り組みを通じて大学入試センター試験に代わり新たに実施される「新テスト」にいち早く対応できるように、今後も継続して授業改革を進めます。

加えて、加計学園の建学の理念を教育柱に「立志三風」を定め、その実現のために「生活三則」の指導を教職員一丸となって取り組みました。今後も継続して学校運営を行います。

立志三風

- 一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）
- 一、振気・勉学の良風と尚ぶ（努力）
- 一、忠恕・爽凜の美風と養う（友愛）

生活三則

- 一、場と清めましょう
- 一、時と守りましょう
- 一、礼と正しましょう

岡山理科大学附属中学校

校長 河村 定彦

教学の充実

■高校進学クラスの新設

平成29年4月より、従来の中高一貫コース（スーパー選抜クラス・選抜クラス 定員80名）を廃止して、中高一貫クラス（定員40名）と新たに高校進学クラス（定員40名）にします。中高一貫クラスは難関国公立大学の進学を目指します。高校進学クラスは難関公立高校や難関私立高校への進学を目指します。これにより、中高一貫クラスと高校進学クラスの2クラスとし、進路選択の多様化を図りました。

■クラス別教育目標

- (1) スーパー選抜クラスの全国中学校偏差値60を維持しました。

また、自ら進んで学習する「自立学習」を身に

つけさせることで、難関大学に合格できる学力を養いました。

- (2) 選抜クラスは、基礎学力の充実を図り、学ぶことの大切さを身につけさせ、大学進学に対応させました。

■生徒による授業評価・教員自己評価

確かな学力を育むために、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのかを知り、生徒の側から捉えた授業改善を進めるとともに、授業担当教員自らが自己評価を行いながら改善点を明らかにして、授業改善に生かしました。

■授業計画書の作成

全科目の授業計画書を作成し、授業内容及び授業進捗を生徒・保護者が理解し、円滑な学習活動が行えるように学習支援の強化を図りました。

■自習教室の開設

生徒の自学自習能力を向上させ、習慣となるように、全学年を対象として、放課後に自習教室を開設しました。岡山理科大学と連携して、教員志望の大学生による学習サポート体制で週3日実施しました。

■英会話

英会話を1～3年生の全クラスで実施し、自分から積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養いました。また、1・2年生から大学入学希望者学力評価テスト（仮称）を見越し、4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応したケンブリッジ大学英語検定のコースブック・英語教材を使用し英語力の強化を図りました。

■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施

1年生の9割以上が5級以上。2年生の8割以上が4級以上。3年生の6割以上が3級以上の取得を目標とし、教員が生徒に対し、積極的に受検指導を行い、目標の達成に努めました。今後も、継続して上位級の取得指導に努めます。

■TOEIC Bridge を1・2年生の生徒に実施

- (1) 2年終了時には180満点中120点をスコアとすることを目標に設定し、実施しました。
(2) 150点を超える生徒にはTOEIC受験を積極的に促しました。

■教員研修会

『授業改善』を目的に、今年度はアクティブラーニングの取り組みについて、各教科で研修会を実施しました。今後も実施し、教育力の向上に努めます。

生徒指導

■社会性規範育成への取組

社会的なモラルは学校生活においても不可欠です。学校独自としての規則だけではなく、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導を行いながら、コミュニケーションづくりを心掛けました。

■服装指導の実施

服装モットーは「凜とした爽やかさ」です。規定のものに限らず全てにおいてTPOに合わせ、清々しさを持った着こなしができるように、服装の指導を行いました。

■将来につながるリーダーの育成

体育祭、爽凜祭（学習発表会）、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事のほとんどは実行委員に主体性を持って運営をさせました。その各種の運営の中で企画力、実践力、思考力などを学び、個々の人間形成力と強調性を育成しました。

■挨拶の励行

気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるように指導をしました。

■情報教育

インターネット等によるトラブルにまきこまれ

ないために岡山県警察本部より講師を招き、「インターネットモラル教育」の講演を実施しました。また、個人情報の扱いにおいても、その都度、指導をしました。

■家庭、地域社会との協力・連携強化

スクールバスの乗車指導・通学指導などの登下校指導の実施、毎日の生活ノートの確認など生徒の学校生活や地域および家庭での生活などをサポートしました。

■教育相談室・保健室との連携

生徒指導部と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化し、思春期である中学生期を心身ともに健康で過ごせるように努めました。

教務関係

■授業・学習関係

- (1) 行事や休日で抜ける授業は代講日の設定、平日補習、夏期補習、春期補習で補い、1単位当たり年間35時間の授業時間を確保しました。
- (2) 自習教室や平日補習を利用し、クラスの種別に関係なく、授業で理解できなかった部分の補いができる機会を創設しました。
- (3) 休業期間中の補習は進路指導課と連携し、夏期に8日、冬期に3日、春期に4日実施しました。実施科目は国語、社会、数学、理科、英語としました。各教科から指名を受けた生徒には、部活動より補習を優先させました。
- (4) 1年生では学習成績や本人の希望により選抜クラスからスーパー選抜クラスへの移動を認めました。

■カリキュラム・シラバス関係

授業(数)中心のカリキュラムから学習内容の理解度に応じた指導が可能なカリキュラムを作成し、授業で復習が十分できない場合は先取り学習に固執せず、学習内容の定着を第一と考え、取り組みました。

■考査関係

- (1) 定期考査の成績処理終了後、各教科に各学年の学習進捗状況の把握、授業計画書の見直しを求めました。
- (2) 成績不振と判定する基準点を設け、基準点に達していない生徒へ指導を行い、基準点を超えられるように補習を実施しました。実施期間中の部活動は原則禁止としました。
- (3) 新テスト対策として、教科横断型の考査出題をしました。

■情報発信

学年通信を発行し、生徒の現況を家庭に伝え教育活動への協力を求めました。文書とウェブの両方を活用しました。

生徒募集

■塾との関係

中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな学校情報を提供してきました。

今年度も相当数の塾訪問を計画し、円滑に実施し、さらに入試直前において新聞等の告知を行い、生徒確保に努めました。

入試結果を踏まえた塾対象入試説明会を6月中旬に実施しました。

■情報提供

昨年度のオープンスクールや理科実験教室のアンケートによれば、参加動機の上位には常に「小学校からの案内」がランクインしています。小学校の自由研究系課題とリンクさせた企画内容を維持するとともに、学校の情報をインターネット等でも、迅速に幅広く提供しました。

■広報企画

昨年度新設した「県立中学校適性検査対策講座」「難関私立入学試験対策講座」には多くの児童保護者の参加がありました。今年度も継続実施し、本校

教職員の各入学試験分析力と入学試験作題力の向上を目指しました。

また、学校見学（個別 オープンスクール）にて、児童保護者に対し平素の学校を見学する機会を設け、3年生に開講する学校設定科目「理科実験」の授業日を積極的に呼びかけました。

- ① 県立中学校適性検査早期対策講座（5／7）
- ② 県立中学校適性検査対策講座（10／15）
- ③ オープンスクール（7／20、9／3）
（本校教職員による参加体験型授業）
- ④ 理科実験教室（7／30、8／27）
（岡山理科大学教員による参加体験型授業）
- ⑤ トワイライト天体観測（11／10）
- ⑥ ホームページ更新・・・見やすく、分かり易い内容に改善、研究。
- ⑦ 学校新聞「VIVA理中」・・・年4回発行
- ⑧ 募集要項・・・9月上旬完成。

■入試計画全般

- (1) 昨年度と一昨年度の入試日程と科目数について検証を行い、2次入試日程を少し早めました。また、4教科受験を可能にしました。
- (2) 一次入学試験B日程は本校会場のみとし、他会場を取り止めました。

主な行事

| | |
|-----------|------------|
| 4月9日 | 入学式 |
| 4月16日 | 授業参観 |
| 4月21日 | 健康診断 |
| 5月28日 | P T A総会 |
| 6月1日 | 音楽鑑賞 |
| 9月24日 | 体育祭（岡山ドーム） |
| 9月27日～29日 | 修学旅行、勉強合宿 |
| 11月5日 | 爽凜祭（学習発表会） |
| 1月20日 | 百人一首大会 |
| 2月2日～3日 | 校外活動 |
| 3月15日 | 義務教育修了式 |
| 3月17日～25日 | 海外研修 |
| 3月23日 | 終業式 |

生徒・教職員数

■在籍生徒数

(平成28年5月1日現在)

| 学校名 | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員 | 在学者数 |
|-------------|------|------|------|------|
| 岡山理科大学附属中学校 | 80 | 46 | 240 | 151 |

(単位：人)

■教職員数

(平成28年5月1日現在)

| 校長 | 教頭 | 教諭 | 教員 計 | 事務職員 |
|----|----|----|------|------|
| 1 | 1 | 12 | 14 | 1 |

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

| 年度 | | 28年度 | 前年度 | |
|------------|-----------|------------|---------|---------|
| 科目 | | 決算額 | 決算額 | |
| 教育活動 | 収入 | 学生生徒等納付金収入 | 82,951 | 89,777 |
| | | 経常費等補助金 | 62,528 | 62,989 |
| | | その他収入 | 3,110 | 4,469 |
| | | 計 | 148,589 | 157,235 |
| | 支出 | 人件費 | 154,168 | 169,308 |
| 教育研究経費 | | 28,094 | 32,163 | |
| 管理経費 | | 15,762 | 12,350 | |
| その他支出 | | 0 | 0 | |
| 計 | | 198,024 | 213,820 | |
| 教育活動収支差額 | | △49,436 | △56,585 | |
| 教活外 | 収入 | 受取利息等 | 0 | 9 |
| | 支出 | 借入金利息等 | 0 | 0 |
| | 教育活動外収支差額 | | 0 | 9 |
| 経常収支差額 | | △49,435 | △56,576 | |
| 特別 | 収入 | 資産売却差額等 | 0 | 0 |
| | 支出 | 資産処分差額等 | 2 | 0 |
| | 特別収支差額 | | △2 | 0 |
| 基本金組入前収支差額 | | △49,437 | △56,576 | |
| 基本金組入額合計 | | 0 | 0 | |
| 当年度収支差額 | | △49,437 | △56,576 | |